

平成28年度

第1回岡山市総務・市民政策審議会における主要な意見

1 日 時 平成28年8月19日（金）10時00分～11時17分

2 場 所 岡山市本庁舎3階 第3会議室

3 出席者 委員9名

4 傍聴者 報道 1名、傍聴者 なし

5 議 題

岡山市文化芸術振興ビジョンの改定について

6 第1回岡山市総務・市民政策審議会での主な意見

- ・新しい文化芸術施設はイベント開催時のみの一過性の賑わいでなく、いかに定着させるかが大切で、地道に何年も何十年もかけて岡山市に文化の香りが漂うまちにして欲しい。岡山は城下町で、まだ知らないことや誇れる点がたくさんあるので、小さい時からいろいろなことに触れさせるため、学校教育の中に行政が入っていくような形で何か進めてみてはどうか。
- ・若手のクリエイターは集客力の見込める場所を使いたがる傾向があるのを危惧している。岡山城・後樂園を中心とした歴史的建造物が色濃く残るエリアを残し、つないでアピールしていきたい。千日前も旧山陽道近辺であり、そこに文化の薫りが戻ってくるような、新しいクリエイターが常に点在し、箱（新しい文化施設）の中と地元をつなぐような支援ができないか。
- ・箱モノはできたときは新しく珍しいので使われるが、ディレクターを置いたりアーツカウンシルのような団体をつけて、地元と常に新しい情報発信ができるような機能を持たせると岡山市の文化の厚みができるのではと思う。
- ・岡山は中四国の交通の結節点で歴史・文化・色々な資源があるが、あるが県外からの認知度は期待するほど高くない。文化の担い手を育成して発表する場を与えるという構想は重要で理念は崇高だが、それを達成する手段は今の枠組みで足り

ているのか。県内に留まるのではなく、県外・国外も視野に、見るだけでなく参加の視点があればもっといい。岡山の認知度、ブランド、求心力も上がるし、競争相手が増えるほど岡山の市民も頑張ろうと力を入れることにもなる。

- 全体の流れができつつある中で、課題もかなり明確になっている。今回の中でどのように具体的に埋めていけるのかの議論が必要。地方創生の中で人口減少のことが言われているが、地域を愛して、地域の企業に就職するような形で生活を支えていく、そうした子どもたちを育み、日常から親しむような習慣をつくれる拠点に、新市民会館がなっていけばよいのでは。
- 地方創生では産官学金労言がキーワードもあり、地方創生の課題を解決していくためには行政システムも横の連携をかけ、市民協働がいられている中で、市だけでなく経済界や大学、マスコミなど総合的な形で、この構想を活かしていくことが大切。そのためには、NPO等を中心としたコーディネーター機能が必要で、それを担える人を育成しながら、ステップを踏んでいけるよう具現化することで、市民にも見える化が進めていけるように思う。
- 子どもも大切だが、高齢者・障害者が利用しやすい施設や催し、自ら参加できる事業も考えてほしい。
- 新しい文化芸術施設に行くための回遊性や公共交通手段の確保も大きな問題のひとつ。
- 現代アートの祭典について、他都市では開催年ではない年に市民やクリエイターが盛り上がっている。その蓄積があり、次の開催年を迎えている。ソフト面の強化を現代アートの祭典と連動してうまく機能できないか。
- 金沢（歩行者天国）や仙台（ジャズフェスティバル）などでも大学生が活躍している。市民側も産官学のそれぞれが、何ができるかを持ち寄り、市民生活を豊かにしていくか、市民生活を豊かにしていくかという議論により、政令指定都市にふさわしい都市になっていく流れができればいいと思う。
- 高校生や中学生にも目を向けて企画を考える時代になっていて、大学生よりもより地元に近い意見が出てくる。社会に目を広く向けている学校の意見を聞くのもよいのでは。